

米国における、「生活者」のための言語教育

ー成人基礎教育・識字教育の観点からー

福永由佳（国立国語研究所日本語教育基盤情報センター）

1. はじめに

日本における外国人登録者数は約208万5千人余りに上る。滞在目的からみると、入管法や研修制度等の改正によって、就労目的の外国人が増加している。今後、経済連携協定（EPA）により、介護福祉士や看護師の受け入れが始まると、ますます外国人就労者は増え、就労範囲も拡大することが予想される。また、数だけではなく、滞在の長期化傾向も注目すべき点である。滞在の長期化により、新しい家族が形成され、終の棲家としてマイホームを購入する例も増えてきている。その結果、子弟の教育や地域社会といった幅広い場面におけるコミュニケーションが求められるようになる。このような状況は、外国人を単なる労働力不足の補い手ではなく、共に生活する「生活者」として積極的に捉える必要性を示している（金田，2007）。

現在、政府、地方自治体、ボランティア団体等により、日本人住民と外国籍住民が共に生きる社会作りを目指した対応が進められている。しかし、日本語教育に関しては、議論の重点は支援体制の整備に置かれ、学習や教育の内容についての検討は十分には進んでいない（牲川，2006）。支援の充実を図るためには、体制はもとより、「生活者」「社会の一員」の観点から「何を教えるのか、何を学ぶのか」という教育/学習内容の整備も急務である。

本発表では、「生活者」に必要な日本語教育の内容を考えるための参考資料として、移民受け入れの歴史が長い移民大国アメリカの事例を取り上げ、移民等を対象とした成人向け英語教育（成人ESL教育）の内容に関する調査結果を報告する。

2. アメリカにおける成人ESL教育

2.1 背景

2000年の国勢調査によると、アメリカには英語以外の言語を母語とする成人は約35,000,000人に上ると報告されている（U. S. Census Bureau. 2001）。その多くは移民（＝出生時にアメリカ市民ではなかった人）であり、2003年現在、移民はアメリカの総人口の約12%を占め、社会的にも経済的にもアメリカ社会で大きな役割を担う存在である。

また、社会生活をおくるために必要な識字能力に満たない水準の成人（16歳以上）は総人口の約21%（約4千万人）、そのうちの約33%（約1300万人）が移民のような英語非母語話者であると報告されている（Center for Research in Education, 2005）。

2.2 成人ESL教育の概要

【位置づけ】 1964 年の経済機会、1966 年の成人教育法等の制定により、成人対象の ESL 教育は、成人基礎教育、成人中等教育と並ぶ、成人教育のカテゴリーとして確立している。成人 ESL 教育プログラム（州管轄下のプログラム）は、成人教育全体の約 4 割（約 1,200,000 人）と、最も高い割合を占め、高い需要を示している。

【対象者】 16 歳以上の成人（永住権保有者、市民権保有者、移民、難民、亡命者、不法移民） *留学生は除く

【プログラムの提供者】 コミュニティーカレッジやアダルトスクール、識字普及 NPO、教会、図書館、矯正施設など、多様な機関や団体が、学習者のニーズや条件に合わせて、多彩なプログラムを無料もしくは低額で提供している。

2.3 成人ESL教育の内容

(1) 成人教育の教育内容スタンダード

近年、アメリカでは教育の質の向上を目指した教育改革が進められており、その流れの中で、幼稚園から高校のレベル（K-12 レベル）の教育では、教育内容の基準化（スタンダード）が進んでいる。成人教育の分野でも 1980 年代から教育内容スタンダードの必要性が議論され、連邦教育省成人職業教育局は、教育を主管する州によるスタンダード策定を積極的に支援している。

開発主体別にみると、アメリカには大きく分けて 2 種類の教育内容スタンダードが存在している。

成人教育・識字専門機関によるスタンダード：国立識字研究所（NIFL）、Comprehensive Adult Student Assessment System (CASAS) といった専門機関が策定した教育内容スタンダード。州が作成するスタンダードのモデル、マスタープラン的な役割を果たす。

州によるスタンダード：専門機関によるスタンダード、K-12 レベルのスタンダード等をもとに、教育を専管する州が成人教育の専門家や企業などの関係者を交えた委員会によって作成される。現在、少なくとも 12 州が成人 ESL 対象のスタンダードをウェブ上で公開している（注）。

専門機関のスタンダードは教育機関に大きな影響力を及ぼし、そのスタンダード関連資料からアメリカの成人 ESL 学習者が身につけるべき能力の枠組みと要素を知ることができるだろう。

ここでは、Comprehensive Adult Student Assessment System (CASAS) および国立識字研究所（NIFL）のスタンダード関連資料に見られる教育/学習内容を紹介する。

(2) CASAS の資料にみられる教育内容

CASAS は、25 年以上の歴史を持つ、成人教育を専門とする非営利機関で、本部はカリフォルニアに置かれている。CASAS の業務は、成人教育分野の標準化テスト開発を中心に

に、学習内容スタンダードの策定、教材情報や研修の提供、データ管理業務と非常に幅広い。CASAS のテストは、全米のほとんどの州において利用されており、成人教育機関に広く浸透している。

CASAS の大きな特徴は、テストやスタンダードの内容がコンピテンシー (Competency) と呼ばれる、300 項目に及ぶスキルのリストに準拠していることである (CASAS, 2003)。表 1 は、コンピテンシーの 9 領域と各領域の構成要素をまとめたものである。

基礎的なコミュニケーション 個人間コミュニケーション、個人情報に関するコミュニケーション	消費者経済 度量衡、金銭管理、サービス・商品の購入、消費者保護	地域社会のリソース 電話、交通、郵便、時間・天候、余暇、文化
健康 医療サービス、健康維持、薬 《記述例 医療制度へのアクセス方法と利用方法を理解する→身体部位を特定し、病気の症状を説明し、医師の指示を解釈する》	雇用 求職、労働条件、労働団体、組織・システム、職業訓練、テクノロジー、職場のコミュニケーション	政府と法律 権利と義務、選挙、法的アドバイス、税金、環境、経済、歴史と地理
計算 数字、整数、小数、分数、方程式、グラフ、統計、度量衡、計算、暗算	学ぶことを学ぶ 自己管理、目標設定、時間管理、学習能力、思考力、 問題解決力	自立生活のスキル セルフケア、ホームケア、目標達成

表 1 CASAS コンピテンシーリストの枠組みと構成要素

(3) NIFL の資料にみられる教育内容

NIFL は 1991 年の成人教育法 (成人識字法の修正) によって設立された、識字関連業務 (調査・研究、データベースや情報システムの構築、政策立案への情報提供など) を任務とする専門機関で、連邦労働省・厚生省・教育省による省庁横断的組織で運営されている。The Equipped for the Future (EFF) は、1994 年に開始されたプロジェクトで、教育内容スタンダードはこのプロジェクトの成果の一環である。2000 年に完成したスタンダードは、テネシー大学に設置されたセンターで管理・運用され、2004 年現在、センターは 41 州の教育関係者への研修実績がある (NIFL, 2004)。

EFF のスタンダードは、4 領域 (コミュニケーション、意思決定、人間関係、生涯学習) 16 技能から構成されており、それぞれに①定義、②知識、技能、ストラテジーの指標、③流暢さ、自律性、能力の指標、④応用例が設定されている。表 2 は、スタンダードの 4 領域と 16 技能をまとめたもので、下線に示す 4 領域は、特に“生成的な技能”と呼ばれている。

コミュニケーション能力 じっくりと観察する，読んで理解する 書いてアイデアを伝える 他人が理解できるように話す，積極的に聞く	意思決定能力 問題を解決しコミュニケーションするために数学を使う 問題を解決し決断する，計画
対人能力 他者と協力する，支持し影響を与える 対立を解決し交渉する，他者を導く	生涯学習能力 学習に対して責任を持つ 熟考し評価する，調査を通じて学習する 情報／通信技術を使う

表2 EFF の枠組みと構成要素

3. アメリカの事例から学ぶこと

(1) 2つの資料の共通点

- ① 識字教育を含む，成人教育の枠組み： 成人が社会で生きていくために必要なスキルや知識（対人コミュニケーション，問題解決，学習継続，テクノロジー利用，数学など）が内容に取り込まれている。
- ② 言語中心の領域とスキルや知識中心の領域の両立： コミュニケーションの領域と成人が社会生活をおくる上で必要なスキルや知識の領域で構成されている。

(2) 2つの資料の相違点

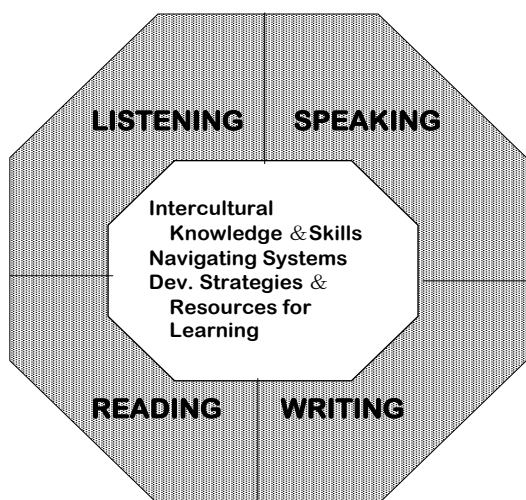
成人に求められる能力観，アプローチの相違： CASAS は，より具体的で実用的なタスクの達成に必要な行動（スキル，知識）としてコンピテンシーを細かく設定している（←コンピテンシー・アプローチ（リチャーズ&ロジャーズ， 2007)）。これに対し，NIFLは成人の社会的役割（親/市民/就労者）に共通して求められる基盤的な能力を“生成的な技能”として総合的に捉えている。

(3) 日本語教育へ示唆

- ① 識字教育・成人教育の観点： 母語話者，非母語話者を問わず，社会で成人が担う役割，必要とされるスキルや知識から，教育・学習内容を捉える。直接言語教育に携わる以外の利害関係者，識字教育や職業訓練との連携が求められる。
- ② 教育内容のリスト化・基準化： 社会で身につけることが期待される能力を明確に示すことによって，社会で自立して生きていくために必要な事柄を理解し，そして，何を学ぶべきか/教えるべきかを考える手がかりを，学習者を含む関係者が得ることできる。（例 EFF の視覚化の工夫）。
- ③ 言語中心の領域とスキルや知識中心の領域の関連づけ： 最近の成人 ESL 教育では，言語だけを教えるプログラムはほとんどなく，情報へのアクセスや社会的な役割を果たすために必要な概念もあわせて扱われる（例 教科書の構成）。

一例を挙げると，マサチューセッツ州の成人 ESL 教育のスタンダードでは，EFFの“生成的な技能”の概念を参考に，7 領域（話す・読む・聞く・書く，異文化，社会システム，学習ストラテジー）が設定されている。図1は，言語以外の領域（異文化，社

会システム、学習ストラテジー）が言語中心の領域（話す・読む・聞く・書く）に文脈



(Massachusetts Department Education 2005: 28)

図 1：スタンダード間の相互関係

を提供するという関係を表わしている。例えば、社会システムに関しては、「英語力の低いレベルの学習者は、絵やジェスチャーを使って、住居に関するニーズをまとめる。レベルの高い学習者には、住居に関するニーズのリスト化だけではなく、ロールプレイや手紙を書く活動に発展させる」といった活動の指導例が示される。

なお、本発表は国立国語研究所日本語教育基盤情報センター・学習項目グループの調査研究「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準の開発」の成果の一部である。

【注】 成人教育分野のスタンダードに関する情報を総合的に提供するウェブサイト Content Standards Warehouse による。(http://www.adultedcontentstandards.ed.gov/)

【参考文献】

金田智子(2007)「生活のための言葉：国内外先行事例から学ぶこと、実態調査から明らかにすること」『平成 19 年度国立国語研究所公開研究発表会予稿集』国立国語研究所。

(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)

牲川波都季(2006)「「共生言語としての日本語」という構想—地域の日本語教育支援をささえる戦略的使用のために—」『「共生」の内実—批判的社会言語学からの問いかけ—』, 三元社, pp. 107-125.

福永由佳(2008)「アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『国立国語研究所内部報告書 平成 19 年度成果普及セミナー報告書「生活者にとって必要な『ことば』を考える』』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター。

(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)

リチャーズ, ジャック・C. & シオドア・S・ロジャーズ(2007)『アプローチ&メソッド 世界の言語 教授・指導法』, アントニー・アルジェイミー&高見澤孟監訳, 東京書籍。

CASAS (2003) *CASAS Competencies: Essential life skills for youth and adult.*

Center for Research in Education (2005) Center for Research in Education (2005) *Profiles of the adult education target population: information from the 2000 Census.*

Massachusetts Department Education (2005) *Massachusetts adult basic education curriculum framework for English for speakers of other languages (ESOL).*

NIFL (2004) *Report on activities and accomplishment FY1993-2002.*

U. S. Census Bureau (2001) *Profile of the foreign-born population in the United States: 2000.*